

TOYOBO NOW

第157期 報告書

2014年4月1日～2015年3月31日

TOPICS

神経再生誘導チューブ「ナーブリッジ®」の
販売網を拡大

化粧品原料～海外市場へ拡販をめざす～
「サイクルクリーン®」が
“セブンプレミアム”のボディソープに採用



GLOBAL REPORT



ブラジルの新工場が稼動

当社グループは、自動車部品用の高性能樹脂（エンジニアリングプラスチック）事業をブラジルで展開するため、東洋紡ブラジル（有）アメリカーナ工場（サンパウロ州）内に新工場を建設し、今春、稼動しました。自社製品の生産に加え、当社グループが有する幅広いコンパウンド※技術を活用した受託コンパウンド事業も推進し、現地自動車メーカーの調達ニーズに対応します。



※コンパウンドとは樹脂に色をつけたり、添加剤を配合し改質することで機能性を付与したりすることです。あらゆる分野で使用されるプラスチックは、多種多様な機能が要求されており、樹脂の中に、顔料、添加剤などを混合分散するには、これら素材の知見に基づいた、高い生産技術が必要です。



Top Message

代表取締役社長 榎原誠憲

業績の概要

当連結会計年度における当社グループを取り巻く事業環境は、世界経済においては、米国で第3四半期まで継続された金融緩和策の中、景気の回復基調が続きましたが、中国をはじめとするアジア新興国では、景気の減速が続きました。一方、国内においては、長期化した消費増税の影響で、景気の回復に力強さが欠ける状況が続きました。

このような環境のもと、当社グループは、「環境、ライフサイエンス、高機能で、社会に貢献する価値を、創りつづけるカテゴリー・リーダー」をめざし、特長のある製品を、国内外の市場へ展開し、成長を実現するための事業活動を進めております。当連結会計年度においても、2017年度までの中期計画で掲げた「海外展開の加速」、「新製品の拡大・新事業の創出」、「国内事業の競争力強化」、「資産効率の改善」、「グローバル経営機能の強化」の5つのアクションプランに沿って、事業活動を進めました。

「海外展開」においては、エンジニアリングプラスチック事業で、今後、自動車部品用樹脂市場の拡大が期待される中米での販売を加速するため、メキシコに新会社を設立しました。また、エアバッグ用基布事業では、ドイツの原系メーカーの共同買収を背景として、海外における営業活動を強化しました。さらに、海水淡水化用逆浸透膜事業では、サウジアラビアの合併会社において生産設備を増設するなど、事業拡大に向けた体制の強化を行いました。

「新製品の拡大」では、液晶偏光子保護フィルムとして展開する「コスモシャイン SRF」や国内初の神経再生誘導チューブ「ナーブリッジ®」などの拡販に努めました。また、「ナーブリッジ®」については、米国での販売に向けた準備も進めました。

「国内事業の競争力強化」、「資産効率の改善」としては、ペットボトル用樹脂の製造を中止し、あわせてポリエステル原料事業から

撤退しました。また、未延伸ポリオレフィンフィルム事業においては、生産の効率化や海外での事業拡大を図るため、当社の生産子会社と他社が合併した合併会社を設立しました。

なお、このようなアクションを国内外で実行する中、新製品の市場展開や新設備の稼動に伴う一時的な費用が発生しました。またポリエステル原料事業からの撤退にかかる費用も発生しました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は3,512億79百万円と前年度比0.1%の減収、営業利益は205億80百万円と前年度比2.0%の減益、経常利益は162億57百万円と前年度比11.8%の減益、当期純利益は81億17百万円と前年度比0.5%の減益となりました。

配当について

当社は、財務体質の改善、利益水準、将来投資のための内部留保などを勘案したうえで総合的に判断しております。当期の期末配当につきましては、当期の業績を踏まえて、1株3.5円とさせていただきます。

中長期的な会社の経営戦略及び対処すべき課題

当社グループは、課題である「事業の成長拡大」に向けたアクションプランとして、以下の5つを掲げています。いずれも、経営として取り組むアクションプランと各事業部門が取り組むアクションプランを設定し、全社一丸となって成長を実現していきます。

①海外展開の加速

当社グループは、現在、海外売上高比率が30%弱にとどまっており、海外での事業拡大が課題です。今後は、海外拠点の事業インフラを活用しながら、特長ある差別化製品や各地域のニーズに合った製品を、新興国など成長市場を中心に拡販します。さらに、輸出、現地生産、アライアンス、M&Aなどを組み合わせることにより、海外展開

を加速し、2017年度には海外売上高比率40%をめざします。

また、海外での事業展開を支える人材の確保と育成も重要な課題であるとの認識から、海外拠点においては、現地スタッフの採用と育成を強化するとともに、多様な人材を幅広く活用していく人材戦略にも積極的に取り組んでいきます。

②新製品の拡大・新事業の創出

近年、当社グループは、「コスモシャイン SRF」、「ナーブリッジ[®]」など、今後の成長ドライバーとして期待される新製品を上市しました。これらはいずれも、お客様のニーズにお応えする革新的な製品として、市場で高い評価を受けています。当社グループとしては、中期計画を実行する中で、これらの新製品を計画どおりに拡大し、真の成長ドライバーに育成することが課題です。

一方、持続的な成長のためには、「不断のポートフォリオ改革」が必要不可欠であり、新製品を継続的に生み出せる“しくみ”をグループ内に整えることが今後の課題であると考えています。また、製品のライフサイクルが短期化する中で、新製品開発を加速させるためには、社外との協業を活用する“オープンイノベーション”がますます重要になります。「コスモシャイン SRF」は、大学との協業から事業化に成功した事例であり、当社グループは今後も積極的に“オープンイノベーション”を取り入れながら、新製品開発を加速していきます。

③国内事業の競争力強化

コスト競争力は、企業の競争力の源泉であり、コストダウンは経営の常道として継続的に取り組むべき課題です。原料の調達構造の改革に加えて、機台の再編や遊休地への事業誘致など国内事業所の構造改革を進めていきます。また事業部門、スタッフ部門を問わず、コストダウン目標と施策を設定、計画に対する進捗の管理を徹底するなどして、国内事業の確実な競争力強化に努めます。

④資産効率の改善

衣料繊維事業については、これまで設備縮小・廃棄を伴う構造改革を躊躇することなく進め、資産効率の改善に努めてきました。また、スペシャルティ事業にあっても、事業環境の変化などで収益性

が低下した事業は、見直しを進めていきます。当連結会計年度では、ペットボトル用樹脂の製造を中止し、あわせてポリエステル原料事業から撤退しました。今後も、ポートフォリオ改革の視点に立ち、事業層別を徹底する中、グループ会社と一体となって資産効率を重視した経営を継続します。

⑤グローバル経営機能の強化

海外展開を加速し、事業拡大を実現するためには、グローバルにグループ経営できる機能を強化することが重要です。具体的には、グローバルな業績管理体制の強化に努めるなど、組織運営を見直すとともに、それを支えるIT基盤の整備を進めます。さらに、グローバルな人材の確保と育成のための制度改革を行います。

次期の見通し

2015年度の事業環境につきましては、全体としては、昨年4月以降続いた消費増税の影響は解消され、また賃上げや株価上昇の影響を受けて、景気は緩やかに回復していくと想定されます。一方で、国内では、原燃料価格は不安定な動きが懸念され、海外では、中国をはじめとするアジア新興国で、減速した景気の停滞が懸念され、先行きには不透明感が残るものと予想されます。

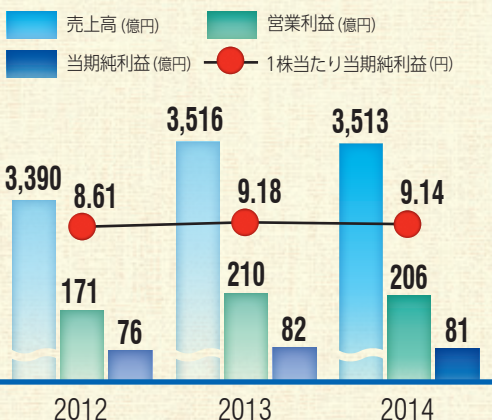
当社グループでは、こうした事業環境を踏まえて、環境変化に強い収益体質づくりに努めます。また、「環境、ヘルスケア、高機能で、社会に貢献する価値を、創りつづけるカテゴリー・リーダー」をめざし、収益性が高く成長力のある事業に経営資源を集中していきます。また、資産効率を高め、財務体質を強化するなどして、「成長力」と「安定性」を備えた強い会社をめざしてまいります。

このことにより、2015年度の売上高は、当年度比3.9%増の3,650億円、営業利益は同16.6%増の240億円、経常利益は同35.3%増の220億円、親会社株主に帰属する当期純利益は同47.8%増の120億円を予想しています。

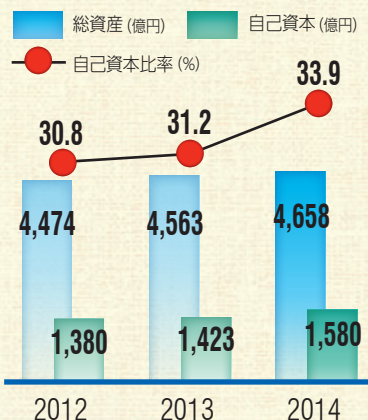
なお、当社の「ザイロン[®]」繊維を使用した防弾ベストに関する訴訟については、米国において損害賠償等請求訴訟が2件提起されておりますが、当社としては訴訟の中で相手方の主張が誤りであることを立証し、適切な防御を行ってまいります。

業績ハイライト

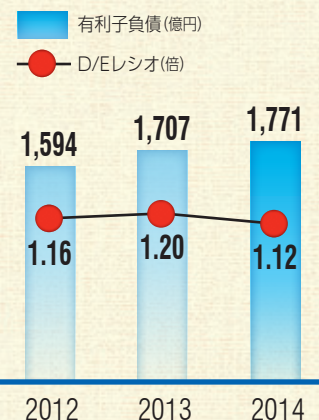
売上高・営業利益・当期純利益・1株当たり当期純利益



総資産・自己資本・自己資本比率



有利子負債・D/Eレシオ



事業別業績の概要

Films & Functional Polymers フィルム・機能樹脂事業

フィルム事業では、包装用フィルムは、消費税増税後の消費の反動減や夏場の天候不順の影響を受けましたが、拡販により販売数量を伸ばしました。工業用フィルムは、アジア市場での拡販、国内のスマートフォン関連用途の取り込みなどで、販売は堅調に推移しました。「コスモシャイン SRF」は、テレビ向け用途で海外ユーザーを中心に採用が拡大し、大幅な増収となりました。

機能樹脂事業では、工業用接着剤「パイロン®」は、塗料用途では苦戦しましたが、IT・電子関連用途が堅調に推移しました。エンジニアリングプラスチックは、主力の自動車部材用途が、中国、北米向けを中心に好調に推移しました。



売上高 1,496 億円 ↑1.1% 増 (前年同期比) 営業利益 76 億円

Industrial Materials 産業マテリアル事業

エアバッグ用基布は、国内自動車市場の低迷や原料高の影響を受けました。スーパー繊維では、「ダイニーマ®」は販売が伸び悩みましたが、「ザイロン®」が耐熱用途を中心に数量を伸ばしました。機能フィルターでは、自動車関連用途は低調に推移しましたが、VOC処理装置がアジア市場の市況改善を受けて回復基調で推移しました。生活・産業資材は、機能性クッション材「ブレスエアー®」が堅調に推移しました。スパンボンドは、土木・建築用途を中心に拡大しました。



売上高 679 億円 ↓5.3% 減 (前年同期比) 営業利益 60 億円

Life Science ライフサイエンス事業

バイオ事業では、主力の診断薬用酵素の販売が海外で好調に推移するとともに、ライフサイエンス用試薬も拡大しました。メディカル事業では、「ナーブリッジ®」は、国内で適用症例数を積み上げ、着実に売上を伸ばしましたが、医薬品製造受託は、受託案件延期の影響を受けて苦戦しました。機能膜事業では、海水淡水化用逆浸透膜は、安定した交換需要により堅調に推移しましたが、医用膜が海外向けで苦戦しました。



売上高 287 億円 ↑4.9% 増 (前年同期比) 営業利益 50 億円

Textiles 衣料繊維事業

スポーツ衣料製品は、大手アパレル向けで販売が順調に推移しました。ユニフォーム用途は、全般に堅調に推移しました。テキスタイルは、中東向け特化生地販売が回復基調となりました。アクリル繊維は原料高の影響を受けるとともに、市況の悪化もあり、苦戦しました。



売上高 769 億円 ↓2.8% 減 (前年同期比) 営業利益 24 億円

Others 不動産事業／その他事業

当事業では、不動産、エンジニアリング、情報処理サービス、物流サービス等のインフラ事業は、それぞれ概ね計画どおりに推移しました。

売上高 282 億円 ↑10.8% 増 (前年同期比) 営業利益 27 億円

(営業利益 消去 全社△31億円)

連結貸借対照表の要旨

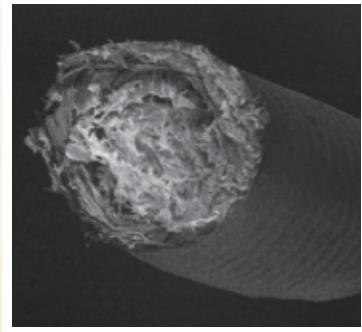
(単位:百万円)

科 目	当 期 (2015年3月31日現在)	前 期 (2014年3月31日現在)	科 目	当 期 (2015年3月31日現在)	前 期 (2014年3月31日現在)
資 産 の 部			負 債 の 部		
流 動 資 産	196,607	184,630	流 動 負 債	146,250	160,582
固 定 資 産	269,202	271,625	固 定 負 債	158,472	150,558
有 形 固 定 資 産	209,289	209,619	負 債 合 計	304,722	311,141
無 形 固 定 資 産	3,311	3,029	純 資 産 の 部		
投資その他の資産	56,602	58,977	株 主 資 本	116,065	110,015
資 産 合 計	465,809	456,256	その他の包括利益累計額	41,923	32,295
			少 数 株 主 持 分	3,098	2,805
			純 資 産 合 計	161,087	145,115
			負 債 ・ 純 資 産 合 計	465,809	456,256

神経再生誘導チューブ 「ナーブリッジ®」の販売網を拡大

末梢神経の再生を促進する日本初の治療用医療機器「ナーブリッジ®」は、事業拡大を加速するため、新たにアルフレッサ ファーマ株式会社と販売契約を締結し、4月16日より、従来の販売代理店である泉工医科工業株式会社との2社での並行販売を開始しました。

「ナーブリッジ®」は、国内ではすでに500症例を超え、臨床使用上の有効性、安全性は確認されています。当社では、現在進めている適用拡大に加え、海外展開の準備も行っています。



化粧品原料 ～海外市場へ拡販をめざす～

当社は、バイオテクノロジーを基幹技術として、アンチエイジング剤「ファイトポリアミン®-S」、天然保湿剤「サーフメロウ®」、「セラメーラ®」、親水性保湿剤「アミノピジェール®」といった化粧品原料を開発、販売しています。これらは、肌にも地球にも優しい天然系保湿成分や高生理活性成分などが使用されており、国内の化粧品メーカーはもとより、最近では海外のメーカーにも採用されはじめています。今後は、欧米ブランドなど海外市場への拡販をめざしていきます。



「ファイトポリアミン®-S」使用商品



「アミノピジェール®」使用商品



「セラメーラ®」使用商品

「サイクルクリーン®」が “セブンプレミアム”のボディソープに採用

当社のリサイクルPETフィルム「サイクルクリーン®」が、(株)セブン&アイ・ホールディングスのプライベートブランド商品“セブンプレミアム 濃密泡で香り立つボディソープ”の詰め替え用パウチに採用されました。

「サイクルクリーン®」は、リサイクル樹脂を80%も使用したPETフィルムです。この詰め替え用パウチに使用される「サイクルクリーン®」の原料の一部には、セブン&アイグループの店頭で回収された使用済みペットボトルも含まれています。

今後もリサイクル原料を使用したフィルムを拡大し、環境に配慮した製品づくりに貢献していきます。



連結損益計算書の要旨

(単位:百万円)

科 目	当 期 (自 2014年4月 1日 至 2015年3月31日)	前 期 (自 2013年4月 1日 至 2014年3月31日)
売上高	351,279	351,577
売上原価	274,503	274,602
売上総利益	76,775	76,974
販売費及び一般管理費	56,195	55,968
営業利益	20,580	21,006
営業外収益	3,832	4,519
営業外費用	8,155	7,099
経常利益	16,257	18,426
特別利益	1,160	595
特別損失	5,101	5,151
税金等調整前当期純利益	12,316	13,871
法人税等	4,024	4,720
少数株主損益調整前当期純利益	8,292	9,150
少数株主利益	175	996
当期純利益	8,117	8,154

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位:百万円)

科 目	当 期 (自 2014年4月 1日 至 2015年3月31日)	前 期 (自 2013年4月 1日 至 2014年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	20,107	23,927
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 20,089	△ 22,218
財務活動によるキャッシュ・フロー	797	△ 10,839
現金及び現金同等物に係る換算差額	373	698
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,187	△ 8,433
現金及び現金同等物の期首残高	19,177	26,467
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	19	1,103
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	6	40
現金及び現金同等物の当期末残高	20,389	19,177

(記載金額は、百万円未満を四捨五入して表示しております。)

会社の概要・株式の状況

(2015年3月31日現在)

社 名 東洋紡株式会社
英 文 社 名 TOYOBO CO., LTD.
証 券 コー ド 3101
創 立 1882年(明治15年)5月3日
設 立 1914年(大正3年)6月26日
資 本 金 51,730,003,166円
本 社 大阪市北区堂島浜二丁目2番8号
(代表 06-6348-3111)
東 京 支 社 東京都中央区京橋一丁目17番10号
名 古 屋 支 社 名古屋市中区市場木町390番地
従 業 員 数 連結 10,101名 単体 3,035名

役員 (2015年6月26日現在)

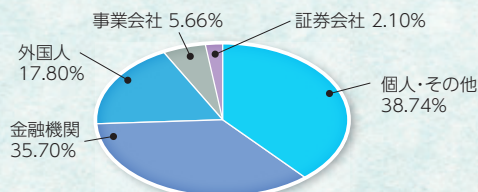
役 職	氏 名
代表取締役会長	坂 元 龍 三
代表取締役社長 社長執行役員	橋 原 誠 慈
代表取締役 専務執行役員	高 橋 寛
取 締 役 常務執行役員	香 山 和 正
取 締 役 常務執行役員	高 林 博
取 締 役 常務執行役員	矢 野 邦 男
取 締 役 常務執行役員	佐 野 茂 樹
取 締 役 執行役員	手 嶋 真 一
取 締 役 *注1	荻 村 道 男
取 締 役 *注1	岡 豪 敏
監 査 役 (常 勤)	西 中 久 雄
監 査 役 (常 勤)	森 田 盛 人
監 査 役 *注2	鷗 飼 昭 生
監 査 役 *注2	里 井 義 昇

(注1) 取締役のうち荻村道男氏および岡 豪敏氏は社外取締役であります。
(注2) 監査役のうち鷗飼昭生氏および里井義昇氏は社外監査役であります。

株主メモ

事 業 年 度 4月1日から翌年3月31日まで
(期末の配当金受領株主確定日 3月31日)
定 時 株 主 総 会 6月に開催いたします。
基 準 日 定時株主総会の基準日は3月31日といたします。
その他必要のあるときは、あらかじめ公告して定めます。
単 元 株 式 数 1,000株
公 告 掲 載 ホーム ページ アドレス <http://www.toyobo.co.jp>
電子公告による公告ができない場合、日本経済新聞に掲載いたします。
株 主 名 簿 管 理 人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所 〒540-8639 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店
および全国各支店で行っております。

■ 発行可能株式総数 2,000,000,000株
■ 発行済株式の総数 890,487,922株
(自己株式2,653,322株含む)
■ 株 主 数 78,495 名
■ 株式分布の状況(所有者別)



大株主

株 主 名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	56,330	6.34
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	41,147	4.63
ジ ュ ニ パ ー	21,359	2.41
全 国 共 済 農 業 協 同 組 合 連 合 会	19,250	2.17
日 本 生 命 保 険 相 互 会 社	17,508	1.97
東 友 会	16,731	1.88
東 洋 紡 従 業 員 持 株 会	13,514	1.52
株 式 会 社 み ず ほ 銀 行	13,393	1.51
株 式 会 社 三 菱 東 京 U F J 銀 行	13,214	1.49
株 式 会 社 三 井 住 友 銀 行	13,034	1.47

(注) 持株比率は、自己株式(2,653,322株)を控除して計算しております。

関係会社

	国 内	海 外	計
連 結 子 会 社	30	23	53
持 分 法 適 用 会 社	4	5	9
計	34	28	62

各種手続のお申出先

- 住所変更、名義変更、配当金の受け取り方法のご指定、
単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

区 分	お申出先
証券会社でお取引をされている株主さま	株主さまの口座のある証券会社
特別口座(証券会社に口座のない)の株主さま(下の区分を除く)	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (左記、照会先をご参照ください。)
御幸ホールディングス株式会社との株式交換により当社株主となられた特別口座の株主さま	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-7111(フリーダイヤル)

※証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
なお、2009年9月1日付、当社と御幸ホールディングス株式会社との株式交換により当社株主となられた場合は、御幸ホールディングス株式会社において特別口座が開設された三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

単元未満株式(1~999株)をお持ちの方へ

単元未満株式をお持ちの場合、当社に対して、次の請求を行うことにより、売却または1,000株におまとめいただくことができます。ぜひ、以下の制度をご利用ください。

買取制度 単元未満株式の買取を請求する。
買増制度 単元株式(1,000株)にするため、不足する株数の株式の売り渡しを請求する。

(例)当社株式650株をお持ちの場合



お手続方法につきましては、上記のお申出先へお問合せください。